

学長予定者に山田信博附属病院長



山田 信博
質問に答える山田附属病院長
(撮影・隅田聖彦=国際総合学類)

今回の学長選考には、山田病院長のほか井上勲教授(構造生物・学長特別補佐)、高木英明教授(社シス・システム情報工学研究科経営・政策科学専攻長)、田中二郎教授(CS・システム情報工学研究科長)が候補となっていた。学長選考会議は如水会館(東京・千代田区)で、31日午後1時から行われた。会議には

22名が出席し(2名欠席)、全会一致で山田病院長を選出した。選考会議が公表した決定理由は「同氏は、人格が高く、学識に優れ、教育研究活動を適切かつ効果的に運営することができると、情熱と実行力を有し、ビジョンを明示しながら中期計画を策定・推進し、筑波大学の

卓越性を高めることのできるリーダーとして、意図されたい」と、意向調査の結果によれば、広く全学的な支持を得ていることとしている。選考会議に先立ち、29日には意向調査投票が実施され、即日開票された。今回は大学教員だけでなく、職員にも投票権が拡大され、常勤の大学教員

「原点への回帰」 訴える 「筑波ブランド」 創りたい

1751人、事務・技術職員1155人、附属学校教員521人、附属病院医療系職員等693人の計4120人が投票資格者となった。有効投票総数は教員が1497票、事務・技術職員が1070票、附属学校教員が477票、附属病院医療系職員等が386票の計3430票。投票率は83.3%だった。このうち山田病院長は、教員から700票、事務・技術職員から436票、附属学校教員から170票、附属病院医療系職員等から302票と、全ての部門で最も多くの得票を集めた。

山田病院長は、選考会議の結果を受けて31日午後8時から、本部棟8階で記者会見を行った。山田病院長はまず、「大学は人材の育



坪井がロッチェに4位指名 本学7人目のプロ選手誕生

(8面に関連記事)

成、真理の探究、知の創造の場だ」と述べ、学生を中心とした教育の推進や世界水準の研究体制の整備、各分野の連携強化などに力をいれていく方針を示した。特に学生の教育に関して「少子化が進む現在において、学生は宝である」と話し、学生との対話の重視など、学生の立場を尊重する姿勢を示した。

また、自然環境が豊かで、権威主義のない、のびのびとした筑波の校風を生かすとともに、留学生の受け入れや発信などの国際化にもさらに力を入れていくことも述べた。国立大学法人化以降の動きについては、「自律的に組織が動くようになってきていると思う」と基本的には評価する一方、「今の筑波大学に欠けてい

シリア 筑波大学調査団

世界最古の火葬場発見 焼けた人骨 20体見つかる



シリア北西部にある新石器時代の集落遺跡「テル・エル・ケルク遺跡」で8月、本学調査団が約8600年

前の火葬場跡を発見した。火葬に使った土坑(地表面を掘りくぼめて造られた墓穴)や焼けた人骨が同時に発見されたのは初めてのことであり、世界最古の火葬場とみられる。火葬場はテル・エル・ケルク遺跡内にある3つのテル(丘)のうち、北部に位置するアン・エル・ケルクの中央部に見つけた。南北10メートル、東西6メートルの敷地内に直径1メートル、深さ50〜80センチの4つの土坑と47体の人骨が見つかり、その内20体程度が火葬されていた。火葬された人骨のそばの土壁は焼けて固く、色は赤っぽくなっており、800度以上の高温で焼かれたことが分かる。調査団団長の常木晃教授(歴史)は「火葬には一人を完全に白骨化させるのに、1トンの木材が必要になる。火葬した人としていない人がいるのは、何らかの地位がある人を火葬にしたのではないかと推測する。本学のテル・エル・ケルク遺跡における発掘調査は1997年から本格的に始まり、シリア古物博物館総局と合同で実施されている。昨年の調査では集落跡から離れた所で次々に大人の人骨が出土。世界最古級の約8500年前の墓地発見となった。今回発掘された火葬場は、この墓地をさらに掘り下げた結果見つかったものである。今後火葬場はさらに掘り進められ、出土した人骨は調査団所有の倉庫で保管される。今回の発見に関する詳しい内容は来年3月の学会で発表される予定だ。

④赤で囲まれている部分が今年発見された火葬場。青で囲まれている部分には昨年発掘された埋葬骨が見られる。
⑤赤で囲まれている部分から出土した、火葬された頭がい骨。眼孔やあごのラインから、右を向いていることがはっきりと分かる。
(写真提供=常木晃教授)

ら、露骨な差別は少なくなった。しかし「精神科に通っている」と言う、言葉を詰まらせる友人がいた▼パニック障害は100人に2、3人は発症すると言われる。しかし、私はこの病気を知らなかった。「心の病」への無知を痛感させられた。うつ病は約15人に1人かかる病気だ。自分が苦しんでいるため、病気に悩む友人の力になるため、「心の病」は身近なものだと知って欲しい。

できて間もない頃の研究学園都市には、「くば病」と呼ばれる病気があったと聞く。当時は息抜きをする場所もなく閉鎖的で、うつ状態になる研究者や学生が多かったことから名付けられたようだ。今はストレス解消に遊べる場所が増え、TXの開通で閉鎖的な環境も改善された。つくば病はなくなったのか、もしくは思われる▼しかし「心の病」に悩む学生は、今も後を絶たない。本学保健管理センターの精神科を訪れる学生は、毎年約400人。診療件数は10年間で1.5倍近く増えた▼私もパニック障害を発症し、9月から精神科に通い始めた。突然強い恐怖を感じ、過呼吸や動悸、めまいなどに襲われる病気が。発作の恐れから行動を制限し、うつ状態になる患者も少なくない。私も発作が怖くて授業に行けず、不安で涙が止まらないこともあった▼うつ病が「サボリ病」と呼ばれていたころに比べると、露骨な差別は少なくなった。しかし「精神科に通っている」と言う、言葉を詰まらせる友人がいた▼パニック障害は100人に2、3人は発症すると言われる。しかし、私はこの病気を知らなかった。「心の病」への無知を痛感させられた。うつ病は約15人に1人かかる病気だ。自分が苦しんでいるため、病気に悩む友人の力になるため、「心の病」は身近なものだと知って欲しい。

筑波大学新聞

第273号

編集責任
筑波大学新聞
編集委員会
委員長 荻野祥三

TEL: 029(853)2040・6699
E-mail: shinbun@sakura.cc.tsukuba.ac.jp
月刊

発行所
筑波大学
茨城県つくば市
天王台1-1-1

紙面から

サイバーダイイン HAL福祉用販売開始
陽子線医療が先端医療に
本学教授が著書を中国で出版
技巧派左腕・坪井がロッチェへ
2008世界柔道団体選手権大会
第34回雙峰祭 「筑波炎上」

11 9 8 5 2 2

特集 6,7
教育を支える 「先生」と呼ばれるためには

ミニ特集 3
経済危機 どうする?筑波大生の生活

筑波お孔

できて間もない頃の研究学園都市には、「くば病」と呼ばれる病気があったと聞く。当時は息抜きをする場所もなく閉鎖的で、うつ状態になる研究者や学生が多かったことから名付けられたようだ。今はストレス解消に遊べる場所が増え、TXの開通で閉鎖的な環境も改善された。つくば病はなくなったのか、もしくは思われる▼しかし「心の病」に悩む学生は、今も後を絶たない。本学保健管理センターの精神科を訪れる学生は、毎年約400人。診療件数は10年間で1.5倍近く増えた▼私もパニック障害を発症し、9月から精神科に通い始めた。突然強い恐怖を感じ、過呼吸や動悸、めまいなどに襲われる病気が。発作の恐れから行動を制限し、うつ状態になる患者も少なくない。私も発作が怖くて授業に行けず、不安で涙が止まらないこともあった▼うつ病が「サボリ病」と呼ばれていたころに比べると、露骨な差別は少なくなった。しかし「精神科に通っている」と言う、言葉を詰まらせる友人がいた▼パニック障害は100人に2、3人は発症すると言われる。しかし、私はこの病気を知らなかった。「心の病」への無知を痛感させられた。うつ病は約15人に1人かかる病気だ。自分が苦しんでいるため、病気に悩む友人の力になるため、「心の病」は身近なものだと知って欲しい。

HAL福祉用販売開始

サイバーダイナミクス 世界初の試みに海外展開も

本学の山海塾之教授(知機)が代表取締役社長を務めるサイバーダイナミクス株式会社は10月10日から、大和ハウス工業株式会社(本社:大阪・北区)と共同でロボットスーツHALの福祉用機体のリース販売を首都圏・関西周辺の介護・福祉施設を対象に開始した。サイバーダイナミクスは、これを年間500台ほど出荷する



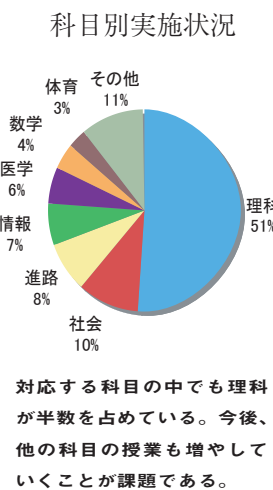
販売を開始した福祉用「HAL」(両脚タイプ)

方針で、北欧諸国への進出も視野に入れる。これに先立ち7日には、HALの研究開発および生産拠点となる新社屋(つくば市・学園南)の竣工式が行われ、山海教授や大和ハウスの村上健治社長のほか、来賓として岩崎洋一学長が出席した。

今回事業を開始した「HAL福祉用」は下半身タイプで、老化により低下した足腰の筋肉や神経の機能を自力で回復することを支援することが目的。装着すると表皮に流れる微弱な電流を伝え、歩行などをモーターの動力で補助する。サイズはS・M・Lに分かれており、保守メンテナンス料を含めたりす料は両足タイプが月22万円、単脚タイプが月15万円。リース期間は5年だ。1回の充電で連続約60分間稼働する。今後は福祉用ロボットスーツの全身タイプを開

「高大連携の部屋」開設 活動をデータベースに 全国初の試み

本学ホームページに10月20日から「高大連携の部屋」が開設された。ここでは、本学教員が高校に対し行った活動をデータベースで紹介している。高大連携の活動をデータベース化し、公開するのは全国で初めて。高大連携とは、高校と大学が互いに連携すること



対応する科目の中でも理科が半数を占めている。今後、他の科目の授業も増やしていくことが課題である。

教授・社(シス)が中心となり、本学教員や事務職員、また現場の県立高校教諭の協力を得て進められた。本学教員が各都道府県に派遣され行われる「出前講義」や高校生が本学に直接訪れ見学する「研究室見学」など、過去4年間の実績を教員側からの情報を基に掲載している。閲覧者は都道府県、実施形態、学類などの項目別に分けられたデータを二目で確認できるシステムになっている。高校生からも気軽にアクセスしてもらえよう、本学生の意見も取り入れた。高校側への広報だけ

でなく、教員の活動報告の場にも活用されることねらう。平成17年度から19年度の間は高大連携の活動は2.4倍に増えた。特に出張講義が全体の4割を占める。また、現在は活動範囲が茨城県内にとどまっていたため、全国に活動を広げることが求められる。大澤教授は「データベース化することでさまざまな課題が見えてきた。教員には研究活動と教育活動を両立して欲しい」とホームページ活用へ期待を述べた。

模擬法廷お披露目参加者による懇談も開催。リニューアルされた模擬法廷の見学会が10月11日に行われた。見学会の前に、1B109の裁判員候補者控室で懇談があった。本澤曰く「模擬法廷への期待感を述べた。土本氏は、以前の模擬法廷創設を主導しており、本澤曰く「模擬法廷がスタートを切った。活用するためのアイデアを構想するのがこれからの課題」と語った。本澤学類長は、学生はもちろん、一般市民へ向け公開講座なども開きたいと考えているようだ。

学では裁判実務を担当している。他にも谷萩陽一、茨城県弁護士会会長や山口卓男本学顧問弁護士が出席した。見学会では、参加者による懇談が開かれた。学生による質問に来賓が答え、活発な意見交換がなされた。お披露目にあたって、模擬法廷のリニューアルを主導した本澤学類長は、「ようやく新模擬法廷がスタートを切った。活用するためのアイデアを構想するのがこれからの課題」と語った。本澤学類長は、学生はもちろん、一般市民へ向け公開講座なども開きたいと考えているようだ。

陽子線医学利用研究センター 陽子線医療が先進医療に 少ない副作用でがん治す

本学附属病院が「先進医療」として、厚生労働省に届け出た「陽子線医学利用研究センター」における陽子線治療が7月、受理された。これを受け8月から開始せず、少ない副作用でがんを治す

んを治す陽子線治療を、患者が治療費を負担する先進医療として診療を開始し、すでに20例ほど実施した。陽子線治療施設は国内で6件。現在4施設が新たに計画または整備されている。同院は5例目だ。治療にかかる費用は照射回数に関わらず248万4000円。照射時間は1回1分ほどだが、照射を患部に合わせるのに12-15分かかる。同院が得意とする肝臓がんの陽子線治療の場合、5年以内に同じ場所ががんが再発しない確率は約87%に達する。陽子線治療は、体内に入ると一定の深さで完全に停止し、エネルギーが減少する陽子の性質を利用した治療法。手術によるがん切除

に比べ身体への負担が少なく、すでに普及しているX線治療よりも副作用が少ない。本学は83年から現在の高エネルギー加速器研究機構の施設を利用して、陽子線治療の臨床研究を行ってきた。01年から陽子線センターで同研究を進め、診療

水資源テーマに発表 日中の学生が集う

第1回日中大学院生フォーラムが、10月23、24日、総合研究棟Aで行われた。本フォーラムは生命環境科学研究所が主催しており、日本からは本学、中国

からは北京大など6大学1機関が参加した。本フォーラムのテーマは「生命と環境のための水資源」。23日には、「未来に向けた水資源の管理」、「次世代への食の安全の保存」、「水と生命」など、さまざまな研究発表が行われた。24日には、前日の発表を総括した発表がなされた。本フォーラムのような日中合同の研究発表は本学で初めての試みである。また、大きな特徴は企画・運営を学生が行ったことである。責任者の馬場将人さん(生環2年)は、「このフォーラムが日中学生間の交流の場になれば嬉しい」と語った。本フォーラムは、ディスカッションを主な目的としているため、コミュニケーション能力の向上も期待できる。科学研究のみならず、日中の文化的・学術的つながりの構築も目標としている。本フォーラムは今後毎年



日中の研究者が集まり記念撮影(総合研究棟A前)

行われる予定だ。今回は中国で開催されることになった。馬場さんは、「参加してほしい」と語った。

「幸せなキャリアのつけ方」講演 自分の力を将来に活かす 本学OGが講師に

自分が持つ力を将来の仕事にどう生かすかを学生にアドバイスする講演「幸せなキャリアのつけ方」が10月22日に開催された。講師には、芸術専門学群OGであり、キャリアコンサルタント、エグゼクティブコーチなどとして活躍している植田寿乃氏(※年度卒業)を迎えた。学生団体iris(アイリス)の第7弾企画として行われた今回の講演には約40人が来場した。植田氏は、自分のモチベーションの源泉を探るためのワークシートを用いたから、学生と積極的にコ

ミュニケーションを行った。ワークシートによって能力が傾向別に分類され、同じ傾向を持つ学生同士で話をする場面もあった。参加者は、同じ能力の傾向を持つだけでも考え方がそれぞれ異なることを発見するなど、互いの価値観についての会話を花を咲かせた。来場した高橋みどりさん(社工5年)は、「ポスターを見て来た。自分の性格や他の人との考え方の差がわかり、とてもためになった。今日学んだことを生かしていきたい。また機会があったら参加したい」と語った。

講演を終えた植田氏は本学に対して「受け身、まじめだ」という印象を受けた。就職はゴールではなくスタート。自分で選んだ職場で自分の持つ力をどう生かすかを考えてほしい」とメッセージを送った。学生団体irisは、今後本学学生に向けてイベントを企画する予定だ。 瀨尾 政雄(せお・まさお) 本学名誉教授 10月13日に死去 73歳。 1908年東京教育大学大学特殊教育学科卒。66年同大教育学部附属盲学校教諭。72年文部省初等中等教育局特殊教育課教科調査官。78年本学心身障害学系助教。82年同教授。98年本学名誉教授。

CO2削減ポスターで節電呼び掛け 本学のCO2排出量が7月に入り、前年度同月の排出量を548トン上回ったことが、環境安全管理課の調べで分かった。比率にして9%の増加となる。今夏は昨年より暑く、クーラーの電気使用量が増加したことが原因と見られる。これを受け本学は、節電などを各学生支援室などに通達。「緊急告知」CO2削減のため電気使用量を5%削減」という見出しのポスターとビラを作成し、全学に対して「10年以上経過した冷蔵庫の廃棄」、「コンピュータなどの省エネモード設定」、「研究室・執務室を5分以上離れる際の消灯」を呼びかけた。

本学は今年3月、温室効果ガス排出抑制などに関する計画を策定し、CO2排出量を毎年2%ずつ削減することなどを目標とした。本学は電気によるCO2排出が72%と最も多く、削減対策として節電を重視してきた。今回の排出量超過で、今年度の目標値6万9600トンを超えるとの懸念が膨らんだ。

腰塚武志副学長(学生生活担当)は「事務室や教室などは教職員の協力があり問題はない。ただ、課外活動などで施設を使用する場合は節電に気を配って欲しい」と学生に注意を促した。

経済危機 どうする!? 筑波大生の生活

アメリカ発の金融危機は、今や私達の生活にも大きな影響を与えている。日用品の値上げが相次いだり、株価が乱高下したりと、経済状況の先行きははっきりしない。現在は、一体どういう状況だといえるのか。つづきを中心として、その現状を追った。(本紙・雪丸千彩子Ⅱ人文学類、富岡千佳子Ⅱ比較文化学類、牛尾仁実、高橋俊樹Ⅱ社会学類)

学内 食堂

相次ぐ物価高騰の波は、学生の憩いの場となっている食堂にも押し寄せている。一部の食堂では、材料費の高騰などにより、とうとう値上げに踏み切った。一方で、値段を維持している食堂もある。現状をどうとらえているのか、それぞれ立場から語ってもらった。

値上げの辛さと 上げない厳しさ

健康に良くない。今は大丈夫でも、年をとってからしわ寄せが来る」と警鐘を鳴らす。メニューサンプルを20円値上げた。企業努力が追い付かないほど、食料費の高騰が続いたためだ。また、中国産食材をできるだけ使用せず、国産を定数から助かっているが、業者から燃料用の重油値上がりに伴う入浴料値上げの申し入れがあり、8月下旬に学生への通達を経て、9月16日から190円の新材料金となった。

宿舎 風呂

平砂、追越、一の矢宿舎の共同浴場の入浴料がこの9月から値上げした。宿舎



入浴料値上げの掲示を見る学生

使うよう心がけていることも一因である。食堂店長の廣原さんは「食べるものだから、量を減らすわけにはいかない」という。値上げ後は安いメニューを選ぶ人が増えており、毎日同じものを注文する人も少なくないという。廣原さんは「毎日同じものを食べる」と、「毎日同じものを食べる」と話す。本学の食堂は「便利だから値上げして



食堂でにぎわう第2エリア食堂

ガソリン 食費

今年、原油高騰や暫定税率復活に伴うガソリン代の上昇が日本を襲った。ガソリン代は一時、リットル180円前後にまで跳ね上がった。ただ、10月末には150円を下回るなど、ある程度は落ち着いてきている。本学には車を所有している学生や車で通学している学生も多い。現在ガソリン価格がリットル130円

料金改定を機に 施設改善望む声

いた入浴回数券を買い求める学生が、普段より大幅に増えるなどの変化があったが、その後は目立った問題は少ない。利用者数の変動も特になかったと語った。一の矢宿舎で暮らす古田舞子さん(日3年)は「ただか20円の値上がりといっても、月々で換算すると大きな出費になる。宿

専門家の眼

金改定の際には速やかな通達を頼んでいるが、社会情勢を考えると先行きは不透明だ」と語った。風呂に入らない生活は考えられない以上、宿舎で暮らす学生への影響は必ずだ。負担を強いられる宿舎生には、しばらく我慢の日々が続きそうだ。ついでに、値上げに関する報道がしばしば行われ、今後の生活に不安を抱

就職見通しに不安 自分の能力を磨け

が進行するのではと考えられている。しかも、米大手投資銀行のリーマン・ブラザーズの経営破綻し金融危機が顕在化したことで、風向きが変わった。就職マネーの引き上げによって原材料価格は下落した。特に原油価格は1バレル60ドル台にまで低下し、一時は100ドルを超えた北京五輪以前とは隔世の感もある。また、消費意欲が落ち込むなか、自動車などの販売不振や、値下

バス通学に変更 生活見直し考え

より高くなってしまったという。「金銭面では得しているのではないかと考えている。バスは自分で運転しなくていいので、結果的には車通学時



給油では満タンを避ける

いてはそれ程心配する必要はないのでは」と話す。懸念されるのはむしろ就職への影響だ。デフレ不況によって企業が雇用を控える可能性があるからだ。実際、メディアでは学生の内定を取り消されたという報道もある。就職活動への影響は文字通り学生の将来に影響する以上、軽視することはできないだろう。しかし、平沢教授は「経済の見通しが不透明なのは事実だが、こうした時こそ、今の自分には何が出来るか」を考えるプラス思考が大切だ。そのために学生生活はあるのだと思えば、自分だけのやるべきことも見えてくるのではないだろうか。

リン代の高騰は収まってきたが、今後もバス通学は続けよう。原油価格に限らず、先行きが不透明なのは食料品もである。今回話を聞いた7人に、最近の物価高騰によって食費に影響があったか尋ねた。するとカツ丼や総菜の値上げが特に困ったとの答えが返ってきた。食料品の値上げにはガソリン代の高騰による輸送費の増大が関係している。フードマイレージという言葉があるように、食料品の輸送距離が長い程その食品の価格も上昇する。原油価格の変動には様々な要因が複雑に絡み合っているため、そのことが私たちの生活に今後どう影響するかを予測することは困難である。だが、今の不安定な状況は、ある意味では生活を見直してみるチャンスともいえる。これを機に、お金に賢く地球に優しい学生を目指してみよう。

「再生」叫ばれる中 教育を支える

現場から

教育の現場は今どうなっているのだろうか。現役教員の野口真隆さん(教育研究科1年)に話を聞いた。野口さんは現在、県内の公立中学校に籍を置かれたり、茨城県教育委員会からの派遣者として本学の大学院に在籍している。

野口さんは、ご両親が教員だったということなどもあり教員の道を選んだ。教員を現在も続けているのは、現職のままになった父の存在が大きいとのこと。「志半ばだった父の遺志を自分なりに果たそうという思いが強い」と言う。野口さんは自分が子供の頃と現在の子供の違いについて

子どもの遊びに変化が



ある公立高校での授業風景

保護者とのトラブルに関してサポートしてくれ、逆にしては、「自分は恵まれた環境にいたと思う」と言う。自身の成長につながったトラブルがあれば学校全体

本学と教職

東京教育大学を前身とする本学は、そのイメージもあってか教員輩出校として名高い。事実、毎年5000人以上の学生が教員免許を取得し、国立大学では上位の輩出数を誇る。また、創立から現在までに筑波大学として輩出した教員数は

視点

「クソ教育委員会」——大阪府知事の橋下徹氏はそう言う。教育者を痛烈に批判した。大分県では教員採用試験での不正が発覚。教師に風当たりが強い時代になった。いじめや不登校、学力低下。教育現場には問題が山積みだ。

質の高い教員育成を

教員の問題が取りざたされる昨今であるが「質の高い教員とは、教科に力をつけて豊かな知識を持ち、免許更新講習などもその一環だ」と言う。また、本学では現役教員向けのサポートも行っている。来年度から始まる教員免許更新講習などもその一環だ。



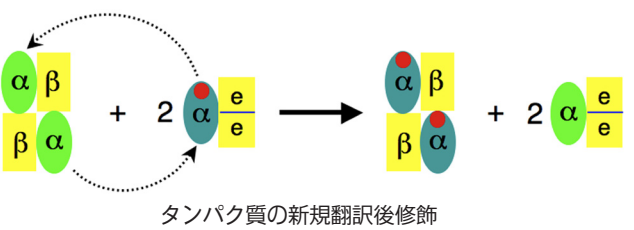
小林教授も「他の学問にも興味があったが、世界をリードする分野で自分の研究を世界に発信したい」と思いこの道を選んだ」と言う。今回の発見

タンパク質の スワッピング機能 思いもよらない新発見 タンパク質生成の 新概念

小林教授が専門とする応用微生物学の分野は、日本古来の発酵食品の生産技術を引き継いで、日本が世界をリードする数少ない分野の一つでもある。また、日本は資源が乏しいといわれているが、四季折々の気候により季節それぞれ多様な微生物の資源に恵まれて

タンパク質の置き換え(スワッピング)をすることで成熟化タンパク質を生成する機能だ。この考えは誰も予想しなかった新しい概念である。今回の発見は、失敗を繰り返しつつ粘り強く実験を行う中で思いもせず見つかった。小林教授自身「自分たちも予想だにしない発見だった。こんなメカニズムの存在に驚くと共に、生命は面白いものだ」と感じている。

タンパク質の置き換え(スワッピング)をすることで成熟化タンパク質を生成する機能だ。この考えは誰も予想しなかった新しい概念である。今回の発見は、失敗を繰り返しつつ粘り強く実験を行う中で思いもせず見つかった。小林教授自身「自分たちも予想だにしない発見だった。こんなメカニズムの存在に驚くと共に、生命は面白いものだ」と感じている。



タンパク質の新規翻訳後修飾

卒業生からの手紙

「お前を大学に入れてやる金が、ウチにはない。進路を決めるべくして行った家族会議、その冒険、父は申し訳なきように言いました。今思えばその一言が私のターニングポイントだったのかも知れません。」



進学諦めず日本一つかむ 柔道指導員 小室宏二さん

「なりたい」ではなく「なる」。「そう思い、自分から度果たすことが、問、母校である足立学園

が、経済的にも精神的にも私の「自立」であったと思えます。高校時代、果たせなかった「柔道日本一」という夢、これを諦めて他の道を選択することが、私には出来ませんでした。学費がないならアルバイトを、自力で進学卒業してみせる。そして果たせなかった日本一の柔道家になる。その決意

「なりたい」ではなく「なる」。「そう思い、自分から度果たすことが、問、母校である足立学園から思いいます。大学院修了の後、3年(平成14年度)専攻修了、(財)講道館」

技巧派左腕・坪井がロツテへ

感謝を胸に活躍目指す

本学硬式野球部所属の坪井俊樹(体専4年)が10月30日のドラフト会議でロツテに4位指名された。

指名前の会見で、「意中の球団は阪神」と明言していた坪井。阪神が左投手を補強ポイントに挙げていたことから、獲得



岩崎学長(左)と握手を交わす坪井

が有力視されていたが、ロツテの指名を受け、「明るい球団で選手がのびのびとプレーしている。プロ野球選手になるという夢が叶った」と前向きに話した。

坪井は駆けつけた岩崎洋一学長と握手を交わし、「まずはしっかりと力をつけて」とエールを贈られた。

坪井は、兵庫県立社高出身。04年選抜高校野球大会でベスト4の成績を残した。翌年、本学に入学し、1年生の春季リーグから5試合に登板。06年の秋季リーグでは8勝を挙げ、リーグ優勝に貢献した。大学通算34勝は、首都リーグ歴代4位の成績。そのほか、首都リーグ最優秀投手を3度受賞するなどの活躍を見せた。

坪井の持ち味は、1.86センチの長身から投げ下ろす146キロの直球と、チェンジアップ。球が遅れて出てくるように見えるフォームが特徴で、ソフトバンクの和田毅やロツテの成瀬善久の

ような技巧派の左腕だ。背中で周りの選手を引っ張っていくような存在で、チームでは常に柱となっていた。川村卓監督(体育講師)は、「彼は実直な男で、この球団に行ってもこの世界に行っても恥ずかしくない」と評価した。

坪井は、「入るだけではない。長く活躍できて実績を残せる選手になりたい」と意欲を語った。また、川村監督は、「ロツテは左投手が少なく、坪井が戦力として食い込んでいける可能性がある」と期待を述べた。

ロツテに指名を受けた坪井に現在の心境や抱負を聞いた。(本紙・馬野裕子「社会学類」)

現在の心境は。また実感はない。これからや、という感じ。最初に誰に指名の報告をしたか。

両親に報告した。「夢が叶えられて良かったね」と言われた。プロ1年目の目標は。まずは1軍に上がって、1勝したい。筑波大に来て良かったことは。4年間長い時間を過ごさせてくれた友人や仲間に出会えたこと。都立では、勉強に集中出来たことも良かった。野球生活で心に残ったことは。一試合、一試合全てに残留しているし、スタップを決めるときの話合いも思い出深い。自分の選手生命をあと残してサポーターに回ってくれた部員もいた。感謝したい。抱負を。横浜の工藤選手や阪神の下柳選手が目標。なるべく1年目から数字を残して、長く実績を残したい。

女子 拓殖大を破り5連覇

男子 5年ぶり1部昇格



点での成績はどちらも9勝3敗。拓殖大に2勝すれば本学の優勝が決まるが、1勝1敗では拓殖大と勝敗が同じになり、ゴールアベレージでの勝負にまで持ち越す可能性もあった。

緊張の第1戦、本学は好調な滑り出しを見た。的確にシュートを決め、主導権を握る。23-18で第1ピリオドを終えた。第2ピリオドは、ペースを取り戻した拓殖大が追い上げを見せ、残り6分で同点。しかし本学も粘りを見せ、41

点での成績はどちらも9勝3敗。拓殖大に2勝すれば本学の優勝が決まるが、1勝1敗では拓殖大と勝敗が同じになり、ゴールアベレージでの勝負にまで持ち越す可能性もあった。

緊張の第1戦、本学は好調な滑り出しを見た。的確にシュートを決め、主導権を握る。23-18で第1ピリオドを終えた。第2ピリオドは、ペースを取り戻した拓殖大が追い上げを見せ、残り6分で同点。しかし本学も粘りを見せ、41

点での成績はどちらも9勝3敗。拓殖大に2勝すれば本学の優勝が決まるが、1勝1敗では拓殖大と勝敗が同じになり、ゴールアベレージでの勝負にまで持ち越す可能性もあった。

緊張の第1戦、本学は好調な滑り出しを見た。的確にシュートを決め、主導権を握る。23-18で第1ピリオドを終えた。第2ピリオドは、ペースを取り戻した拓殖大が追い上げを見せ、残り6分で同点。しかし本学も粘りを見せ、41

両親に報告した。「夢が叶えられて良かったね」と言われた。プロ1年目の目標は。まずは1軍に上がって、1勝したい。筑波大に来て良かったことは。4年間長い時間を過ごさせてくれた友人や仲間に出会えたこと。都立では、勉強に集中出来たことも良かった。野球生活で心に残ったことは。一試合、一試合全てに残留しているし、スタップを決めるときの話合いも思い出深い。自分の選手生命をあと残してサポーターに回ってくれた部員もいた。感謝したい。抱負を。横浜の工藤選手や阪神の下柳選手が目標。なるべく1年目から数字を残して、長く実績を残したい。

両親に報告した。「夢が叶えられて良かったね」と言われた。プロ1年目の目標は。まずは1軍に上がって、1勝したい。筑波大に来て良かったことは。4年間長い時間を過ごさせてくれた友人や仲間に出会えたこと。都立では、勉強に集中出来たことも良かった。野球生活で心に残ったことは。一試合、一試合全てに残留しているし、スタップを決めるときの話合いも思い出深い。自分の選手生命をあと残してサポーターに回ってくれた部員もいた。感謝したい。抱負を。横浜の工藤選手や阪神の下柳選手が目標。なるべく1年目から数字を残して、長く実績を残したい。

両親に報告した。「夢が叶えられて良かったね」と言われた。プロ1年目の目標は。まずは1軍に上がって、1勝したい。筑波大に来て良かったことは。4年間長い時間を過ごさせてくれた友人や仲間に出会えたこと。都立では、勉強に集中出来たことも良かった。野球生活で心に残ったことは。一試合、一試合全てに残留しているし、スタップを決めるときの話合いも思い出深い。自分の選手生命をあと残してサポーターに回ってくれた部員もいた。感謝したい。抱負を。横浜の工藤選手や阪神の下柳選手が目標。なるべく1年目から数字を残して、長く実績を残したい。

両親に報告した。「夢が叶えられて良かったね」と言われた。プロ1年目の目標は。まずは1軍に上がって、1勝したい。筑波大に来て良かったことは。4年間長い時間を過ごさせてくれた友人や仲間に出会えたこと。都立では、勉強に集中出来たことも良かった。野球生活で心に残ったことは。一試合、一試合全てに残留しているし、スタップを決めるときの話合いも思い出深い。自分の選手生命をあと残してサポーターに回ってくれた部員もいた。感謝したい。抱負を。横浜の工藤選手や阪神の下柳選手が目標。なるべく1年目から数字を残して、長く実績を残したい。

両親に報告した。「夢が叶えられて良かったね」と言われた。プロ1年目の目標は。まずは1軍に上がって、1勝したい。筑波大に来て良かったことは。4年間長い時間を過ごさせてくれた友人や仲間に出会えたこと。都立では、勉強に集中出来たことも良かった。野球生活で心に残ったことは。一試合、一試合全てに残留しているし、スタップを決めるときの話合いも思い出深い。自分の選手生命をあと残してサポーターに回ってくれた部員もいた。感謝したい。抱負を。横浜の工藤選手や阪神の下柳選手が目標。なるべく1年目から数字を残して、長く実績を残したい。

両親に報告した。「夢が叶えられて良かったね」と言われた。プロ1年目の目標は。まずは1軍に上がって、1勝したい。筑波大に来て良かったことは。4年間長い時間を過ごさせてくれた友人や仲間に出会えたこと。都立では、勉強に集中出来たことも良かった。野球生活で心に残ったことは。一試合、一試合全てに残留しているし、スタップを決めるときの話合いも思い出深い。自分の選手生命をあと残してサポーターに回ってくれた部員もいた。感謝したい。抱負を。横浜の工藤選手や阪神の下柳選手が目標。なるべく1年目から数字を残して、長く実績を残したい。

両親に報告した。「夢が叶えられて良かったね」と言われた。プロ1年目の目標は。まずは1軍に上がって、1勝したい。筑波大に来て良かったことは。4年間長い時間を過ごさせてくれた友人や仲間に出会えたこと。都立では、勉強に集中出来たことも良かった。野球生活で心に残ったことは。一試合、一試合全てに残留しているし、スタップを決めるときの話合いも思い出深い。自分の選手生命をあと残してサポーターに回ってくれた部員もいた。感謝したい。抱負を。横浜の工藤選手や阪神の下柳選手が目標。なるべく1年目から数字を残して、長く実績を残したい。

両親に報告した。「夢が叶えられて良かったね」と言われた。プロ1年目の目標は。まずは1軍に上がって、1勝したい。筑波大に来て良かったことは。4年間長い時間を過ごさせてくれた友人や仲間に出会えたこと。都立では、勉強に集中出来たことも良かった。野球生活で心に残ったことは。一試合、一試合全てに残留しているし、スタップを決めるときの話合いも思い出深い。自分の選手生命をあと残してサポーターに回ってくれた部員もいた。感謝したい。抱負を。横浜の工藤選手や阪神の下柳選手が目標。なるべく1年目から数字を残して、長く実績を残したい。

両親に報告した。「夢が叶えられて良かったね」と言われた。プロ1年目の目標は。まずは1軍に上がって、1勝したい。筑波大に来て良かったことは。4年間長い時間を過ごさせてくれた友人や仲間に出会えたこと。都立では、勉強に集中出来たことも良かった。野球生活で心に残ったことは。一試合、一試合全てに残留しているし、スタップを決めるときの話合いも思い出深い。自分の選手生命をあと残してサポーターに回ってくれた部員もいた。感謝したい。抱負を。横浜の工藤選手や阪神の下柳選手が目標。なるべく1年目から数字を残して、長く実績を残したい。

両親に報告した。「夢が叶えられて良かったね」と言われた。プロ1年目の目標は。まずは1軍に上がって、1勝したい。筑波大に来て良かったことは。4年間長い時間を過ごさせてくれた友人や仲間に出会えたこと。都立では、勉強に集中出来たことも良かった。野球生活で心に残ったことは。一試合、一試合全てに残留しているし、スタップを決めるときの話合いも思い出深い。自分の選手生命をあと残してサポーターに回ってくれた部員もいた。感謝したい。抱負を。横浜の工藤選手や阪神の下柳選手が目標。なるべく1年目から数字を残して、長く実績を残したい。

両親に報告した。「夢が叶えられて良かったね」と言われた。プロ1年目の目標は。まずは1軍に上がって、1勝したい。筑波大に来て良かったことは。4年間長い時間を過ごさせてくれた友人や仲間に出会えたこと。都立では、勉強に集中出来たことも良かった。野球生活で心に残ったことは。一試合、一試合全てに残留しているし、スタップを決めるときの話合いも思い出深い。自分の選手生命をあと残してサポーターに回ってくれた部員もいた。感謝したい。抱負を。横浜の工藤選手や阪神の下柳選手が目標。なるべく1年目から数字を残して、長く実績を残したい。

両親に報告した。「夢が叶えられて良かったね」と言われた。プロ1年目の目標は。まずは1軍に上がって、1勝したい。筑波大に来て良かったことは。4年間長い時間を過ごさせてくれた友人や仲間に出会えたこと。都立では、勉強に集中出来たことも良かった。野球生活で心に残ったことは。一試合、一試合全てに残留しているし、スタップを決めるときの話合いも思い出深い。自分の選手生命をあと残してサポーターに回ってくれた部員もいた。感謝したい。抱負を。横浜の工藤選手や阪神の下柳選手が目標。なるべく1年目から数字を残して、長く実績を残したい。

両親に報告した。「夢が叶えられて良かったね」と言われた。プロ1年目の目標は。まずは1軍に上がって、1勝したい。筑波大に来て良かったことは。4年間長い時間を過ごさせてくれた友人や仲間に出会えたこと。都立では、勉強に集中出来たことも良かった。野球生活で心に残ったことは。一試合、一試合全てに残留しているし、スタップを決めるときの話合いも思い出深い。自分の選手生命をあと残してサポーターに回ってくれた部員もいた。感謝したい。抱負を。横浜の工藤選手や阪神の下柳選手が目標。なるべく1年目から数字を残して、長く実績を残したい。

両親に報告した。「夢が叶えられて良かったね」と言われた。プロ1年目の目標は。まずは1軍に上がって、1勝したい。筑波大に来て良かったことは。4年間長い時間を過ごさせてくれた友人や仲間に出会えたこと。都立では、勉強に集中出来たことも良かった。野球生活で心に残ったことは。一試合、一試合全てに残留しているし、スタップを決めるときの話合いも思い出深い。自分の選手生命をあと残してサポーターに回ってくれた部員もいた。感謝したい。抱負を。横浜の工藤選手や阪神の下柳選手が目標。なるべく1年目から数字を残して、長く実績を残したい。

両親に報告した。「夢が叶えられて良かったね」と言われた。プロ1年目の目標は。まずは1軍に上がって、1勝したい。筑波大に来て良かったことは。4年間長い時間を過ごさせてくれた友人や仲間に出会えたこと。都立では、勉強に集中出来たことも良かった。野球生活で心に残ったことは。一試合、一試合全てに残留しているし、スタップを決めるときの話合いも思い出深い。自分の選手生命をあと残してサポーターに回ってくれた部員もいた。感謝したい。抱負を。横浜の工藤選手や阪神の下柳選手が目標。なるべく1年目から数字を残して、長く実績を残したい。

両親に報告した。「夢が叶えられて良かったね」と言われた。プロ1年目の目標は。まずは1軍に上がって、1勝したい。筑波大に来て良かったことは。4年間長い時間を過ごさせてくれた友人や仲間に出会えたこと。都立では、勉強に集中出来たことも良かった。野球生活で心に残ったことは。一試合、一試合全てに残留しているし、スタップを決めるときの話合いも思い出深い。自分の選手生命をあと残してサポーターに回ってくれた部員もいた。感謝したい。抱負を。横浜の工藤選手や阪神の下柳選手が目標。なるべく1年目から数字を残して、長く実績を残したい。

両親に報告した。「夢が叶えられて良かったね」と言われた。プロ1年目の目標は。まずは1軍に上がって、1勝したい。筑波大に来て良かったことは。4年間長い時間を過ごさせてくれた友人や仲間に出会えたこと。都立では、勉強に集中出来たことも良かった。野球生活で心に残ったことは。一試合、一試合全てに残留しているし、スタップを決めるときの話合いも思い出深い。自分の選手生命をあと残してサポーターに回ってくれた部員もいた。感謝したい。抱負を。横浜の工藤選手や阪神の下柳選手が目標。なるべく1年目から数字を残して、長く実績を残したい。

両親に報告した。「夢が叶えられて良かったね」と言われた。プロ1年目の目標は。まずは1軍に上がって、1勝したい。筑波大に来て良かったことは。4年間長い時間を過ごさせてくれた友人や仲間に出会えたこと。都立では、勉強に集中出来たことも良かった。野球生活で心に残ったことは。一試合、一試合全てに残留しているし、スタップを決めるときの話合いも思い出深い。自分の選手生命をあと残してサポーターに回ってくれた部員もいた。感謝したい。抱負を。横浜の工藤選手や阪神の下柳選手が目標。なるべく1年目から数字を残して、長く実績を残したい。

首都大学秋季リーグ

打線が奮い2位 流経大に敗れ神宮逃す



野球

9月13日から平塚球場(神奈川県平塚市)などで行われていた首都大学秋季リーグが、10月18日に終了した。本学は9勝4敗、2位と健闘し、明治神宮大会への出場権を賭けた関東地区大学野球選手権大会へと駒を進めた。

10月11日、6勝2敗と好調な打線が奮い2位と健闘し、明治神宮大会への出場権を賭けた関東地区大学野球選手権大会へと駒を進めた。

調の本学は春季リーグの覇者、東海大学との1回戦で5-2と3点リードで迎えた5回裏、打線が爆発。大島健(体専1年)、本田雅輝、遠藤野歩(同3年)のタイムリーなどで6点を獲得。勝負を決めた。投げてはエースの坪井俊樹(体専4年)が8回と3分の1を3点に抑える好投を見せ、13-3と東海大に圧勝した。

続く12日の2回戦は、5回までノーヒットに抑えられた。打線が奮い5-2で敗れた。

両者、勝1敗で迎えた13日の3回戦。3回表に坪井が3連打を浴び、3点を先取される。その裏に本田のタイムリーヒットで1点を返すが、その後は相手投手の小松将司を攻略できず、8回表にもダメ押し4点

6分、鹿野洵生(同3年)の3ポイントシュートが決まり62-60で逆転。そのまま逃げ切り73-66で本学が5年ぶりの1部昇格を決めた。また日本体育大は初の2部降格となった。

吉田健司監督(体育・講師)は、「第3ピリオドの終盤からオフENSEを昨年のやり方に変えたことが功を奏した。次はインカレ優勝を目指したい」と話した。

1勝1敗で迎えた第3回戦。序盤は日本体育大が立て続けにシュートを決め主導権を握る。本学は激しいディフェンスに苦しみ、力を発揮できないまま16点差にまで引き離される。最終ピリオド、キャプテン梁川慎浩(体専4年)を中心に本学の猛追が始まる。残り

6分、鹿野洵生(同3年)の3ポイントシュートが決まり62-60で逆転。そのまま逃げ切り73-66で本学が5年ぶりの1部昇格を決めた。また日本体育大は初の2部降格となった。

吉田健司監督(体育・講師)は、「第3ピリオドの終盤からオフENSEを昨年のやり方に変えたことが功を奏した。次はインカレ優勝を目指したい」と話した。

1勝1敗で迎えた第3回戦。序盤は日本体育大が立て続けにシュートを決め主導権を握る。本学は激しいディフェンスに苦しみ、力を発揮できないまま16点差にまで引き離される。最終ピリオド、キャプテン梁川慎浩(体専4年)を中心に本学の猛追が始まる。残り

6分、鹿野洵生(同3年)の3ポイントシュートが決まり62-60で逆転。そのまま逃げ切り73-66で本学が5年ぶりの1部昇格を決めた。また日本体育大は初の2部降格となった。

吉田健司監督(体育・講師)は、「第3ピリオドの終盤からオフENSEを昨年のやり方に変えたことが功を奏した。次はインカレ優勝を目指したい」と話した。

1勝1敗で迎えた第3回戦。序盤は日本体育大が立て続けにシュートを決め主導権を握る。本学は激しいディフェンスに苦しみ、力を発揮できないまま16点差にまで引き離される。最終ピリオド、キャプテン梁川慎浩(体専4年)を中心に本学の猛追が始まる。残り

6分、鹿野洵生(同3年)の3ポイントシュートが決まり62-60で逆転。そのまま逃げ切り73-66で本学が5年ぶりの1部昇格を決めた。また日本体育大は初の2部降格となった。

吉田健司監督(体育・講師)は、「第3ピリオドの終盤からオフENSEを昨年のやり方に変えたことが功を奏した。次はインカレ優勝を目指したい」と話した。

1勝1敗で迎えた第3回戦。序盤は日本体育大が立て続けにシュートを決め主導権を握る。本学は激しいディフェンスに苦しみ、力を発揮できないまま16点差にまで引き離される。最終ピリオド、キャプテン梁川慎浩(体専4年)を中心に本学の猛追が始まる。残り



相手のディフェンスをかかわす梁川(左)

女子 春季に続き3位

男子 6位に終わる



10月13日の最終戦では、嘉悦大学と対戦した。第1セットは終盤に逆転され、23-25で落としたが、第2セットは一転して嘉悦大を圧倒し、25-11と大差で守りでの安定感も光った(嘉悦大学戦にて)。

10月13日の最終戦では、嘉悦大学と対戦した。第1セットは終盤に逆転され、23-25で落としたが、第2セットは一転して嘉悦大を圧倒し、25-11と大差で守りでの安定感も光った(嘉悦大学戦にて)。

10月13日の最終戦では、嘉悦大学と対戦した。第1セットは終盤に逆転され、23-25で落としたが、第2セットは一転して嘉悦大を圧倒し、25-11と大差で守りでの安定感も光った(嘉悦大学戦にて)。

10月13日の最終戦では、嘉悦大学と対戦した。第1セットは終盤に逆転され、23-25で落としたが、第2セットは一転して嘉悦大を圧倒し、25-11と大差で守りでの安定感も光った(嘉悦大学戦にて)。

10月13日の最終戦では、嘉悦大学と対戦した。第1セットは終盤に逆転され、23-25で落としたが、第2セットは一転して嘉悦大を圧倒し、25-11と大差で守りでの安定感も光った(嘉悦大学戦にて)。

10月13日の最終戦では、嘉悦大学と対戦した。第1セットは終盤に逆転され、23-25で落としたが、第2セットは一転して嘉悦大を圧倒し、25-11と大差で守りでの安定感も光った(嘉悦大学戦にて)。

この残る試合。戦力的には勝っていたが相手の勢いにやられ自分たちで雰囲気壊してしまったと話した。

今季は得点数がリーグ2位と抜群の得点力が目立つ。FWの木島悠(体専4年)が今期13得点を挙げ、得点ランキング1位。他にも西川優大(同4年)2位(12点)、小澤司(同2年)が13位(6点)と続いた。また、前半の課題だった失点数も徐々に減ってきている。

チームの調子については、風間八宏監督は「個々の力が強くなり、特に4年生は全員たくましくなってきた。チーム全員が主力を出し切り、観ている面白いゲームを期待したい。」と話した。

西が丘サッカー場(東京・北区)などを会場に行われている関東大学サッカーリーグは、9月6日の法政大学戦で後半戦がスタートした。後半の結果は10月26日までに8試合を終えて4勝3敗1分け。前半から連

セットを奪った。その後も主導権を渡すことなく、第3セットは25-22で、第4セットは25-19で連取。セットカウント3-1で快勝した。

中西康司監督(体育・講師)は、「主力に人が出てメンバーの入れ替えがあったこともあり、やや守りなどの好不調の波が大きかった。ただ、今回のリーグ戦で選手層は厚くなったと思う」と話した。12月の全日本インカレに向けて

セットを奪った。その後も主導権を渡すことなく、第3セットは25-22で、第4セットは25-19で連取。セットカウント3-1で快勝した。

中西康司監督(体育・講師)は、「主力に人が出てメンバーの入れ替えがあったこともあり、やや守りなどの好不調の波が大きかった。ただ、今回のリーグ戦で選手層は厚くなったと思う」と話した。12月の全日本インカレに向けて

セットを奪った。その後も主導権を渡すことなく、第3セットは25-22で、第4セットは25-19で連取。セットカウント3-1で快勝した。

中西康司監督(体育・講師)は、「主力に人が出てメンバーの入れ替えがあったこともあり、やや守りなどの好不調の波が大きかった。ただ、今回のリーグ戦で選手層は厚くなったと思う」と話した。12月の全日本インカレに向けて

セットを奪った。その後も主導権を渡すことなく、第3セットは25-22で、第4セットは25-19で連取。セットカウント3-1で快勝した。

中西康司監督(体育・講師)は、「主力に人が出てメンバーの入れ替えがあったこともあり、やや守りなどの好不調の波が大きかった。ただ、今回のリーグ戦で選手層は厚くなったと思う」と話した。12月の全日本インカレに向けて

セットを奪った。その後も主導権を渡すことなく、第3セットは25-22で、第4セットは25-19で連取。セットカウント3-1で快勝した。

中西康司監督(体育・講師)は、「主力に人が出てメンバーの入れ替えがあったこともあり、やや守りなどの好不調の波が大きかった。ただ、今回のリーグ戦で選手層は厚くなったと思う」と話した。12月の全日本インカレに向けて

セットを奪った。その後も主導権を渡すことなく、第3セットは25-22で、第4セットは25-19で連取。セットカウント3-1で快勝した。

中西康司監督(体育・講師)は、「主力に人が出てメンバーの入れ替えがあったこともあり、やや守りなどの好不調の波が大きかった。ただ、今回のリーグ戦で選手層は厚くなったと思う」と話した。12月の全日本インカレに向けて

セットを奪った。その後も主導権を渡すことなく、第3セットは25-22で、第4セットは25-19で連取。セットカウント3-1で快勝した。

中西康司監督(体育・講師)は、「主力に人が出てメンバーの入れ替えがあったこともあり、やや守りなどの好不調の波が大きかった。ただ、今回のリーグ戦で選手層は厚くなったと思う」と話した。12月の全日本インカレに向けて

セットを奪った。その後も主導権を渡すことなく、第3セットは25-22で、第4セットは25-19で連取。セットカウント3-1で快勝した。

中西康司監督(体育・講師)は、「主力に人が出てメンバーの入れ替えがあったこともあり、やや守りなどの好不調の波が大きかった。ただ、今回のリーグ戦で選手層は厚くなったと思う」と話した。12月の全日本インカレに向けて

セットを奪った。その後も主導権を渡すことなく、第3セットは25-22で、第4セットは25-19で連取。セットカウント3-1で快勝した。

中西康司監督(体育・講師)は、「主力に人が出てメンバーの入れ替えがあったこともあり、やや守りなどの好不調の波が大きかった。ただ、今回のリーグ戦で選手層は厚くなったと思う」と話した。12月の全日本インカレに向けて

セットを奪った。その後も主導権を渡すことなく、第3セットは25-22で、第4セットは25-19で連取。セットカウント3-1で快勝した。

中西康司監督(体育・講師)は、「主力に人が出てメンバーの入れ替えがあったこともあり、やや守りなどの好不調の波が大きかった。ただ、今回のリーグ戦で選手層は厚くなったと思う」と話した。12月の全日本インカレに向けて

セットを奪った。その後も主導権を渡すことなく、第3セットは25-22で、第4セットは25-19で連取。セットカウント3-1で快勝した。

中西康司監督(体育・講師)は、「主力に人が出てメンバーの入れ替えがあったこともあり、やや守りなどの好不調の波が大きかった。ただ、今回のリーグ戦で選手層は厚くなったと思う」と話した。12月の全日本インカレに向けて

セットを奪った。その後も主導権を渡すことなく、第3セットは25-22で、第4セットは25-19で連取。セットカウント3-1で快勝した。

中西康司監督(体育・講師)は、「主力に人が出てメンバーの入れ替えがあったこともあり、やや守りなどの好不調の波が大きかった。ただ、今回のリーグ戦で選手層は厚くなったと思う」と話した。12月の全日本インカレに向けて

セットを奪った。その後も主導権を渡すことなく、第3セットは25-22で、第4セットは25-19で連取。セットカウント3-1で快勝した。

中西康司監督(体育・講師)は、「主力に人が出てメンバーの入れ替えがあったこともあり、やや守りなどの好不調の波が大きかった。ただ、今回のリーグ戦で選手層は厚くなったと思う」と話した。12月の全日本インカレに向けて

セットを奪った。その後も主導権を渡すことなく、第3セットは25-22で、第4セットは25-19で連取。セットカウント3-1で快勝した。

中西康司監督(体育・講師)は、「主力に人が出てメンバーの入れ替えがあったこともあり、やや守りなどの好不調の波が大きかった。ただ、今回のリーグ戦で選手層は厚くなったと思う」と話した。12月の全日本インカレに向けて

セットを奪った。その後も主導権を渡すことなく、第3セットは25-22で、第4セットは25-19で連取。セットカウント3-1で快勝した。

中西康司監督(体育・講師)は、「主力に人が出てメンバーの入れ替えがあったこともあり、やや守りなどの好不調の波が大きかった。ただ、今回のリーグ戦で選手層は厚くなったと思う」と話した。12月の全日本インカレに向けて

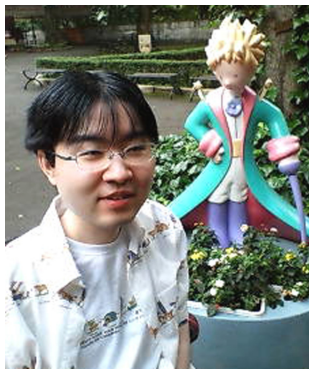


10月13日の最終戦では、嘉悦大学と対戦した。第1セットは終盤に逆転され、23-25で落としたが、第2セットは一転して嘉悦大を圧倒し、25-11と大差で守りでの安定感も光った(嘉悦大学戦にて)。

今年8月、24年の生涯を終えた、情×前期2年の菊池堯さん。本紙の元記者で、「車椅子から」を連載し、学業にも励んでいた。筋ジストロフィーと闘いながらも生き生きと過ごした5年半の大学生活を追った。

03年4月、菊池さんは本学に入学した。そして同年本紙編集部に入部。約3年間、記者として活躍した。

1年生の時には、本紙1面のコラム、「つくばおろし」を執筆した。「墨家が唱えた博愛思想と」



菊池堯さん

「車椅子から」の作者菊池堯さん 5年半の軌跡

弱者を命がけて守り抜く「墨守」の姿勢が、列強の進出に苦しんだ清の民衆を勇気付けたことに触れ、本紙の世界遺産専攻が遺跡を墨守できるか、「希望へと続くことを祈りたい」と読者に語りかけた。

また、3年間連載を続けた「車椅子から」では、大学生活のことだけでなく、社会にも広く目を向けた。本学図書館情報メディア研究科に合格が決まった時にはお世話になった先生や励ましてくれた友人に感謝の気持ちをこめて綴った。

そんな菊池さんの周りには、いつも必ず誰かがいた。

彼に接した人の中には「腹が立つ」といった気持ちを抱く人は二人もいなかったと言った。「普通の学生からは泣き言を聞くのに、彼からはそのような言葉を一度も聞いたことがない。自分に厳しい学生だった」と担当教官の新保史生准教授(図情メ)は話す。

その厳しさは、研究にも表れていたという。菊池さんが取り組んでいたのは、ICTタグの利用法についての研究だった。「ICTタグ活用と社会生活の変化」望ましい普及のあり方をめぐってというタイトルのA4用紙200枚にもなる修士論文を書き上げていた。現在のICTタグの普及のあり方や利用

法について問題点を指摘し、どうクリアしていくかについて言及したものであるが、社会で実用化することまで視野に入れて研究を進めていた彼にとっては、序章となる論文であったと言った。

8月29日、本紙編集部に、菊池さんの訃報を聞いた読者からメールが寄せられた。「車椅子から」の連載で彼の存在を知ったから、語りかける言葉に多くのことを学ばせてもらいました」とつぶやいていた。菊池さんが書き上げた論文は、来年3月に刊行予定の紀要「図書館情報メディア研究」に掲載される。学内では中央図書館や春日キャンパスの図書館で閲覧することができる。惜しまれつつこの世を去った彼の遺したものは大きいと感じさせられた。

原稿に取り掛かる数時間前、というのは1月23日の午後5時のことだけ。卒業論文を提出してきた。1週間後が最終発表だから、大学新聞が発行される頃にはそれも終わっていることと想う。できれば笑顔で終わりたいものだが、果たしてうまくいくだろうか。

振り返れば、4年間の大学生活は長いようで短いものだった。期待と不安が交錯し、なやまなやまなで臨んだ入学式も、軽い緊張を覚えながらはじめて編集室の扉をたたいたのも、ほんの数日前のことのように感じる。

しかし実際は、入学してから今日まで千数百日もの時間が過ぎていく。時の流れを感じずにはこの4年間を過ごしてきたのは、日々を漫然と費やしたためなのか、それとも時間の感覚がねじ曲がるほどの速さで駆け抜けた故なのか。

その答えがわかるのは大学院と。か社会人といった、近い未来のことではない。人生の決断を迫られる事態に直面する速い将来、ふと自信だけであらうから。



美しい音色に満たされたコンサート会場

室内楽コンサート「秋」に耳を傾ける 全6曲で観客魅了

筑波大学管弦楽団の有志による「秋」、小さな室内楽コンサート。第一部は17人が出演し、ウィヴァルディやブラームスなどのクラシックを中心とし、途中美しい音色に満たされたコンサート会場

に現代的な曲を挟んでの全6曲が披露された。奏者の入場と同時に会場は心地よい緊張感に包まれた。演奏が始まるとホールは豊かな音で満たされ、観客はわずかな人数が奏でる見事な「秋」に耳を傾けた。

後半には緩急ある曲調が秋の移ろいやすさを感じさせるピアノ曲などが披露され、観客を魅了した。

公演を鑑賞した数物2年の男子学生は、「友達とのコンサートを見に来た。普段と違う友達の一面を見た」と感想を述べた。また、社会学4年の男子学生は「ピアノの演奏がすごかった。面白い」と話した。

主催者の一人の高田幸宏さん(数物1年)は「思っていたよりも観客が集まって、嬉しい。今回第一回とされているが、第二回、第三回も行えるようにしたい」と今後の意気込みを語った。

今回の懇話会の開催にあたり岩崎学長は、「留学生のエネルギーを感じた。96カ国から1400人以上の留学生を受け入れることは、本学にプラスになる」と述べた。

4132人が参加 要望の多かった企画実現

第32回秋季スポーツ・デーが、10月25、26日に第1サッカー場など学内の16会場で開催された。今回のスポーツデーの参加者は延べ4132人。サークル企画を含め全27種目が予定されていたが、2日目は天候に恵まれずソフトテニス以降雨によるコート不良のため全試合中止となった。

秋季スポーツデー恒例の駅伝には、学生をはじめ教職員の参加も見られ、男子部と女子部では道着・袴姿のランナーが観客の目を惹きつけた。袴姿で参加した



たすき渡しにもユーモアが光った(鹿島神流流道部)

した鹿島神流流道部の渡瀬慶彦さん(人文2年)は「部のメンバーで毎年このスタイルで参加するのが恒例。袴はためくので走りにくかった」と語った。

学生委員会企画のスポーツ選手権では1日目に「密告中」、2日目に「かくれんぼ」が行われた。「密告中」は今年春のスポーツデーで行われた「密告せよ」のパワーアップ版。「かくれんぼ」は毎年アンケータで実施の要望が多かった意見を表現させた形となった。

暴力事件相次ぐ 男子院生が重傷 夜間の外出に注意を

本学大学院生の男性が10月29日午前3時15分ごろ、平塚線の大学会館近くで2人組の男に顔や頭を金属バットで殴られ、骨折など1カ月の重傷を負った。被

事象となり、優勝者はしゃんげんで決まった。学生委員会企画の責任者である渡辺晃良さん(工基3年)は「今まで要望の多かった企画が実現できて良かった。来年につながるならばと語った。」

書を受けた院生は研究室から帰宅する途中の午前3時ごろ、黒のスクーターに乗った20歳くらいの2人組に「何を見ている」と因縁をつけられ、暴行されたという。16日の深夜、天久保2丁目でも同様の手口で被害が出た。

関係は不明だが、黒のスクーターに乗った若い男2人が、平砂から体芸食堂にかけてのペダストリアンで暴走していたところを本紙記者が目撃していた。

9月にも本学が暴行される事件が発生しており、

第10回学生による政策論文 本学生が最優秀賞受賞 地域に貢献できる人材を

愛媛県松山市主催の「第10回学生による政策論文」の最優秀賞に本学の染谷悟さん(医科学1年)の「松山大体キャリアプラン」が選ばれた。(本紙12面に掲載)

これは松山市が「日本一のまちづくり」に取り組みの中で、全国の学生から意見やアイデアを政策論文として募集している事業である。学生にまちづくりや行政に関心を持ってもらい、その提案を市政に生かすことを目的としている。

今回最優秀賞を受賞した染谷さんの論文は、子どもたちに松山市への愛着を持ってもらうことで、地域に貢献できる人材を育てるが相次いでいる。被害の拡大を防ぐには、不審な人物を見かけたら警察に通報し、小さな事件でも各支援室に届け出るのが重要。

美大生と共演 プラットフォーム

学生団体Platformによる第1回イベント「STEREO——美大生と文系大学生が集う、新感覚ギャラリーカフェ」が品川区大井町で10月3、4日に開催された。

Platformは、社会に新しい価値を生み出す新規事業の立ち上げを目指して今年発足し、本学生を含む一般の学生3人と、美大生2人から構成されて

システムの提案である。染谷さんは「本学生は他大生に負けない能力を持っている。今回のイベントは、美大の学生が映像や絵画を始めとする作品を一般大生の解説と共に展示し、来場者との交流を持つことを目的として開かれた。満席となった会場では、飲み物を片手た交換する学生の姿が目立った。

映像作品は実際に上映され、出演者は観客の反応をじかに聞くことになった。自作のラフアニメ映画を上映した日本大学4年の青木久美子さんは「観客の表情が目の前でわかるので緊

張した。機会があればまた参加したい」と語った。来場した明治大学4年の齊藤学さんは「普段は美大生との交流がないのでいい刺激になった。今後のPlatformの成長が楽しみ」と期待を寄せた。

主催者の1人である高橋一巴さん(人間4年)は「就職活動中に意気投合した仲間間で団体を作った。プラットフォーム」は「場」という意味を持っている。今回は他大生同士のスケジュール調整に苦労したが、今後はいろいろな場を美大生と一般学生の相互作用で盛り上げていきたいと語った。

Platformは今後も東京を拠点として定期的に活動を継続する予定だ。

外国人留学生懇話会 留学生らが交流 琴の演奏披露も

学長主催の「外国人留学生懇話会」が10月15日、第2エリア食堂で開かれ多数の留学生や本学教職員のほか、岩崎学長が出席した。食事や飲み物が振る舞われ、琴の演奏もあった。

インドネシアからの留学生のビタさん(日語1年、研究留学生)は「琴は初めて聞いたので、すごく面白かった」と話し、イランからの留学生のメヘーデイさん(シス情3年)は「もっと日本人の学生や先生とも話したかった」と語った。



第34回雙峰祭

今年のテーマは

筑波炎上

第34回祭 近年最高4万人が来場 筑波男など新企画も

第34回雙峰祭が「筑波炎上」をテーマに、10月11-13日の3日間行われた。初日は雨に見舞われ、模擬店が午前中運営停止となった。残り2日は秋晴れに恵まれ、昨年度よりも1万人近く多い約4万人の来場者が足を運んだ。日ごとの活動を披露する学研企画や個性溢れる模擬店が並び、燃えさかる火災のような賑わいを見せた。(本紙・光安素子、雪丸千彩子、二文字類、磯野潤、牛尾仁美、社会学類、宇治田輝之、隅田聖彦、国際総合学類、柏雲、島本剛司、社会学類)



学生団体「ゆ〜もあ」によるキャンドルライト

1日目

天の川

天の川では11-13日、天の川清掃を行った学生団体「ゆ〜もあ」が「天の川水上喫茶店」を、「ウォーターフロントプロジェクト」の水上喫茶まで長かった。

学園祭実行委員会や各団体の企画が連日催された。

「天の川にコンクリートブロックや板などを敷き、その上で営業された。水上美術館」も同じ場所で開催され、さまざまな写真が展示された。

講演会

11、12日の2日間に渡り、大会場国際会議室で講演会が行われた。

11日は国総の卒業生である山崎勝さんが、「カンボジアの農村で考える国際協力とNGO」と題し講演を行った。山崎さんは、カンボジアでの経験や山崎さん自身が国際協力に関わるようになった動機などについて語った。

12日にはNPO法人宇宙船地球号事務局長の山本敏

学研企画 研究成果をアピール 22団体が参加

毎年おこなわれている学内研究企画に、今年は22の団体が参加した。

2日目

筑波男

新企画「集まれ☆筑波男」が12日に大会場ホールで行われた。5人の出場者が自己PRやクイズ、自作の手紙の発表をして、筑波男の座を競い合った。クイズでは、腕相撲や小豆の早運びなども取り入れられていた。

3日目

筑波女

新企画「集まれ☆筑波女」が13日の後夜祭の中でUNITEDステージにて開催された。仮面をつけ

た出場者たちが、クイズ・手紙発表・ファッションショーなどを行った。同時に観客の投票によって決定したグランプリが発表された。初代筑波男には小林英紀さん(自然3年)が選ばれた。結果発表後に準筑波男の小泉和平さん(自然4年)と、自己PRで披露した息の合った漫才をもう一度披露し、会場を沸かせた。小林さんは「漫才で笑わせてやろう」と思っ



バルーンアートによるパフォーマンス

後夜祭

午後6時から、UNITEDステージでは、目玉企画の後夜祭スパーライブ2008が行われた。今年度は、インディーズバンドのLOST IN TIMEが招かれた。フィナーレの花火と共に会場は大いに盛り上がり、3日間に渡る雙峰祭が幕を閉じた。

知システムデザイン研究室)では、すでに実用化されている自動車の運転に関する技術のシミュレーターが展示された。高速道路や一般道路などを音声による指示に従って走行する設定だ。体験を終えた生環1年の女子学生は「教習所での体験を思い出した。エンジン音など本当に運転しているようだった」という。

また骨粗鬆症のMRI診断が今年も行われ、女性限定で診断を無料で行った。MRIによる骨密度計測は、人体に与える影響が少なく計測装置としては世界的にも数少ないものである。参加した比文4年の女性は、「研究の成果を体験できてすばらしい」と感想を述べた。



ドライブシミュレータで運転制御技術を体験

トライアスロンクラブ

トライアスロンは、水泳、自転車、マラソンの順で続けてレースを行う。距離はレースの種類により異なるが、オリンピックと同じ水泳1.5キロメートル、自転車40キロメートル、マラソン10キロメートルが主流だ。筑波大学トライアスロンクラブは、



3つの種目を極める

積んだ頃には1.5キロメートル泳げるようになっていた。チームの目標は毎年夏に開かれるインカレで、そのために全国各地の大会に積極的に参加し、1年間練習に励んでいる。練習は月曜と木曜を除

最後のマラソンでは、足がすりすりになりながら、呼吸も荒々しい中、ゴール目指して懸命に走りきる。「確かにトライアスロンは過酷なスポーツと言われるが、順位によらず、ゴールテープを切った瞬間には、白面いと言って10日間で購入した保護者もいた。」

中には白面いと言って10日間で購入した保護者もいた。商品を実際に手に取り、製作秘話など説明を受けた女子学生は、「筑波大生の自分でも知らないことなどが載っていた。面白いと思う」と驚いた。また、岐阜県から来た保護者は「学生がつくったものだし、面白そう。珍しいからお土産にしようよ」と話した。製作者である戸谷果里さん(知財書2年)は「1年がかりで製作したものが一つ売れる度に胸が熱くなった」と語った。

間の達成感は一歩経験したことがない」と主将の荒木俊弥さん(医療科2年)は言う。大会では競技人口が少ないが、顔なじみの人が多く出来、他大学の交流も盛んだ。毎年夏に開かれる合宿では、他大からの参加もあり、年々同志を増やしている。今年度は明治大学や国士館大学からの参加があった。インカレ後代替わりが行われ、3年から2年へとバトンが渡される。メンバーの学類の違いや、掲げる目標に差がある中、クラブを一つにまとめるのは難しい」と荒木さんは語る。しかし、皆トライアスロンが好きだということに変わりはない。励まし合いながら過酷なレースに挑んでいく。雲一つない晴天の中、宣揚歌「桐の葉」が響き、朝日を背に受けそれぞれがレースへと向かった。(本紙・島本剛司、社会学類)

中には白面いと言って10日間で購入した保護者もいた。

Who's Who?

「第10回学生による政策論文」最優秀賞受賞

染谷 悟 さん (医科学1年)



第二エリア食堂で微笑む染谷さん

「『きっかけ』は新しいきっかけと呼び、その連鎖の中で多くの活動が入り交わっていき、愛媛県松山市主催の「第10回学生による政策論文募集事業」で、最優秀賞に選ばれた染谷さん(医科学1年)はこう語る(本紙10面に関連記事)。

人との活動の連鎖ができる

第一歩を踏み出すことで

「人から何か頼まれる」というのは新しい世界を歩んでほしい」と激励する。文化系サークル連合会へ進心人もいろいろ。先輩方の軌(わだ)のプラ自分の得たきっかけで、今の自分の道がいつか自分の道を道しるべの一つに、彼ら自身の道を歩んでほしい」と激励する。

「大学の4年間ほどとも短い。やりたいと思つたこと、後輩にアドバイスする。その一方で、

天皇皇后両陛下下行幸啓

天皇皇后両陛下が、国賓一妃両陛下をご案内するたとして来日中のスペイン国

や本学などを行幸啓する。両陛下は、JAXA筑波宇宙センターを視察後、午後

共通体育の時間に実施

12月1-5日にかけて、一投てき場で行われる。共通体育の授業時間内に屋

屋外体力測定

前の黒板で集合場所を確認する。共通体育を受講していない学群生や大学院生

第28回つくばマラソン

第28回つくばマラソンが11月30日に開かれる。主催はつくば市、筑波大学、茨城陸上競技協会、読売新聞

第35回炭素材料学会年会

第35回炭素材料学会年会「炭素材料は百面相」が12月3-6日、大会会館

編集後記

今号はおめでたい話題が続き、賑やかな紙面になりました。学長予定者発表会

次号は

12月15日(月) 発行予定です

大学会館書籍部ベストセラー

| | | |
|----|-------------------|-------------|
| 1 | 容疑者Xの献身 | 東野圭吾/文芸春秋 |
| 2 | 岡潔 数学の詩人 | 高瀬正仁/岩波書店 |
| 3 | ガリレオの苦悩 | 東野圭吾/文芸春秋 |
| 4 | モダンタイムス | 伊坂幸太郎/講談社 |
| 5 | 灰色のピーターパン | 石田衣良/文芸春秋 |
| 6 | 竹中式マトリクス勉強法 | 竹中平蔵/幻冬舎 |
| 7 | デジカメに1000万画素はいらない | たくきよしみつ/講談社 |
| 8 | 流星の絆 | 東野圭吾/講談社 |
| 9 | 魔王 | 伊坂幸太郎/講談社 |
| 10 | 聖女の救済 | 東野圭吾/文芸春秋 |

筑波自然図鑑

◇テングタケ◇ 撮影地=文化系サークル会館駐車場



さまざまな林で夏から冬にかけて見られる毒キノコで、症状は急性アルコール中毒に類似する。

催事

シンポジウム シンポジウム市民と芸術

国際会議 第2回日独国際会議「少子高齢社会と家族のための

国際会議

第2回日独国際会議「少子高齢社会と家族のための

発表会

ふいふういらいらたどばじょわすらすらりほわん

今月の1位は先月に引き続き「容疑者Xの献身」。